－所蔵作品紹介－

朝倉　力男　ASAKURA Rikio

渓谷の冬

けいこくのふゆ

作品データはこちら

愛知県豊橋市に生まれた朝倉力男は、18歳で渡道し札幌師範学校に入学。卒業後は教員を務めるかたわら制作にはげみ、1925年、第１回道展に入選を果たした（1935年会員）。1927年からは旭川に移り、地元の美術界の中核として、また美術教育者としても貢献しながら、一水会展（1947年会員）や日展などに作品を発表した。

朝倉芸術の最大の特徴は、「雪の朝倉」とまで呼ばれるほどに、生涯をかけて追求し続けた雪景の表現にある。現場制作をモットーとした朝倉は、酷寒の雪原にキャンバスを立て、常に肌身でとらえた北国の厳しくも美しい相貌を描きぬいた。

この作品では、雪におおわれた山肌や樹々が、気迫あふれるタッチと微妙な色調で描き出されている。凍てついた清冽な冬の大気と、たなびく雪煙の彼方からさしこむ淡い幻想的な光が画面を満たし、自然の外面的な様相のみならず、その冒しがたい神秘性をも浮かび上がらせる。誇張することも美化することもなく、ただひたすらに真摯な姿勢で自然に向かった画家のみが描きうる、真の意味での写実描写。そこには、朝倉自身が目指したところの「視覚描写と心象表現」のみごとな融合が、実現されている。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より